

R6年度 教師と児童が共に学び、学び合いを通じた学び方の習得  
～指導の個別化・学習の個性化を図る効果的な ICT の活用を通して～



## 校内研修通信⑤

### 研究授業ありがとうございました。



先生の授業、そして先生方の参観ありがとうございました。今回は初めて低学年の授業ということで、個別最適な学びや ICT の活用をどのように行うのか学ばせていただきました。授業研究会での先生方の気づき、または自分が感じたことをもとにここに書かせていただきます。

今回の授業で感じたことは以下の3点です。

#### ①低学年における ICT の活用

#### ②一斉指導の大切さ

#### ③個別最適な学びをどのようにコーディネートするのか

〈①に関して〉

ICT 活用の研修会に行くと「低学年はどのように活用するのか。」という話題がよくあがります。タイピングができない、操作に時間がかかるということからあまり使わない方がいいのではという話がよくあります。しかし、今回の1年生の姿を見て ICT の活用は非常に有効だと感じました。今回の先生の授業では“動かす”“自分の考えを選ぶ”でした。1年生は上手に活用して、それをもとに活発な対話がなされていたと思います。今後、全学年で ICT の活用をおこなっていくための、大事なヒントとなる物だと感じました。

〈②に関して〉

何度か先生の授業を見させていただいたのですが、そのなかで感じたことは話す・聞くの徹底です。今の学習の形態としては、“自由”というイメージがあります。しかし低学年において、その自由を重視した授業を行うと話す・聞くの指導は難しくなります。先生の授業では、個別最適な学びと一斉指導を取り入れられて、きちんと話す・聞くということが1年生はとても上手でした。なによりも上の写真にあるように、聞く姿がすばらしかったです。高学年の児童にとっても、自由形態の授業が多い中、きちんと話す・聞くの指導は重要だと感じました。学び方には積み重ねとありますが、低学年からの指導があるからこそ、学び合いが成立するのだと感じました。

〈③に関して〉

低学年の御所浦小プロジェクトでは「学び方を自分できめる」です。今回の授業では、タブレットですか、本ですかを子どもたちが自分で決めて学習していました。そこで、本からの読み取りにより情報量が多くなってしまったため、少し難しくなってしまったのかなと思いました。しかし、それも児童にとって大事な経験だと思いました。分からない時に自分を分析してみることも、学び方を自覚化し、「じゃあ次はタブレットでやってみよう」「タブレットではできたから次は本でしょう」など多様な学びになると思います。私もうまくいかないこと、いつものように授業すればよかったと反省することもあります。同じような流れですべて授業を進めるのではなく、ときには児童に経験として多様な学び方を与えてみるのも良いと感じました。

今回の授業では、どの学年においても共通する大事なことがたくさんありました。